

栗原市

鶯沢八ツ鹿踊り



うぐいすざわなんごう

うぐいすざわやつしかおどり

栗原市鶯沢南郷に伝わる鶯沢ハツ鹿踊りは、約200年の歴史を持つ郷土芸能です。藩政時代から持続され、現在は23代目の踊り手によって伝承されています。

ししおどり

ひとりだちししまい

鹿踊は東日本地域で行われている独り立ち獅子舞

それいくよう・ごこくじょうじゅ

の系統で、盆に家々を巡って祖霊供養・五穀成就を祈って

ねんぶつおどり

踊られる念仏踊の一種と考えられています。

現在は地元八幡神社の祭礼に奉納する

ほか、地域の芸能大会等に参加しています。

芸能の由来として、「鹿撃ちの猟師勘

太郎が木の根元に寝そべっている鹿を発見し射止めたが、よく見

ると鹿の皮を被った鹿好きの息子だった。泣く泣く山を降りた勘

太郎は、息子の死骸を囲んだ八頭の鹿が悲しそうに鳴いているのを目撃する。そ

れ以来猟師をやめ、息子と鹿の霊を弔うために自由に遊ぶ鹿の心と姿を綴って後

世にハツ鹿踊りを伝えた。」という逸話が残されています。

